

して陳列されてゐる。これは鑛物の仲買をして居られた上野瀧藏氏(下田上村關津)が、大津市の或る古物商の軒下に出てゐたのを買取られて家に所藏されて居たのを京都の商人に賣却された、これが隕鐵であつたことを知つた上野氏の喜びは又格別であつたが其の事は一生忘れ得ぬ

ものゝ如く生前物語られた。この隕鐵の出所を知るにも古物商は不明となつたゝめに永久に判明せず、田上から出たものとして京都の商人に賣却されたゝめ「田上」隕鐵として陳列されたものである。

## 近畿地質鑛床の斷片

春 本 篤 夫  
上 治 寅 次 郎

### 和泉國鍋山火山

南海電車貝塚驛から東南六軒にして名高い水間の觀音寺がある。こゝから東方二軒の地點に鍋山の小火山がある。和泉山脈の北縁をなす片麻岩質花崗岩の山地と砂礫、粘土層よりなる丘陵地との遷りかわりの部に位する小さなドームである。五萬分一地形岸和田で見れば小さいながら圓く盛り上つた等高線で直ちに夫れと氣付

く。標高一八三米、附近の平地からは僅かに五六十米の高さを有するに過ぎない。底直徑約四〇〇米。頂上は火口がなく、極めて平坦である。表面は蜜柑畑に被はれ頂上附近には松林があつて火山岩の明瞭な露出は殆ど見られないが山の外形と散亂する岩片とによつて熔岩の分布は略察せられる。

岩石は近畿各地に見る小火山のそれと同様に

讚岐岩様の岩石であるが古銅石の外に大量の輝石を有し橄欖石の斑晶をも有する。肉眼的には灰黑色、殆ど斑晶を認めない緻密の岩石で攝津甲山、大和信貴山、生駒山等に産するものと全く外觀を等しふする。稀に一糎内外の空隙に玉髓を充せるものがある。顕微鏡下に於て斑晶として輝石、古銅石、橄欖石を有する。長石の斑晶は多くの部分に於て全く之を缺く。輝石は最も多量に存する斑晶であつて徑多くは一—二耗古銅石は長さ一耗以下の針狀結晶屢々交叉晶双をなす。橄欖石は稍大形徑二耗位のもの多く比較的自形を有する。石基は微細の斜長石拍子木狀結晶と輝石の微粒とよりなり流狀構造を呈するゼノリスとして斑晶狀の長石と石英を有する。長石は徑一耗位の不規則形狀、双晶をなさず蜂の巢構造を有する。石英は不規則形、多少丸味を帯び、結晶の周圍に非結晶質淡褐色の帯ありこの中に輝石の柱狀微晶が散點せるものがある石英のゼノリスは殆ど融蝕し去られて輝石の針狀結晶の集合體に變りその隙間を淡褐色非結晶

近畿地質鑛床の斷片

質物質にて充せるものもある。

鍋山は一見火山岩のみよりなる滑らかなドームの様に見えるけれども火山岩よりなる部分は頂上より北半のみにして、頂上部には砂礫層の風化して出來た古生層岩石たる角岩、珪岩、砂

岩、硬砂岩等の礫が夥しく散亂してをり、南

側、東南側の下部は、 $N30.E$ 位の走向を有す

る明からな片理を有する片麻岩質花崗岩より

なる北側下底部附近には走向  $N75.S$  又は  $N15.E$

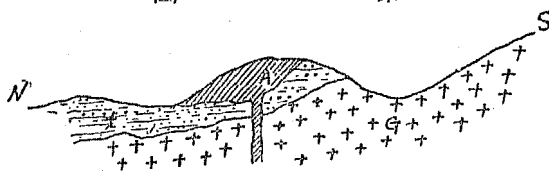
傾斜  $5.W$  の褐色砂質頁岩層が露はれてゐる

上圖の様な構造をしてゐるものと思はれる。

近畿の地方に甲山、生駒山、信貴山、耳成

山、嶽山、鍋山など何れ

第一圖



鍋山火山山相像斷面圖

四五

二七

も相似た岩石からなる小さな姉妹火山のある事は面白い事實である。些細に地形圖の等高線を眺めてゐるとまだ幾らでも發見されるかも知れない。是れ等の多くが一樣に花崗岩質の岩石を貫いてその上に乗り屢々噴出に際して下底の花崗岩より捕獲せりと思はるゝ石英や長石のゼノリスを有する點も又面白い事實である。(春本)

### 河内國嶽山火山丘

河内國南河内郡長野町の東北約二軒半、東條村と彼方村との境界をなせる一火山あり、之を嶽山といふ。高さ二八〇米、北方富田林町、又は二上山麓春日村の西方街道より之を望めば頂上の平坦な美しい截頭圓錐丘に見える。圖は西方錦郡村から東に嶽山火山を見た貌である。

嶽山の西南は片麻岩よりなる金胎寺山(二九六米を最高とする丘陵性山脈に連り、この山脈が低夷して平地に終らんとする處に嶽山が存在する。嶽山の基盤は片麻岩を不整合に被覆する粘土質岩石で東麓、龍泉部落の小學校側からは

第二圖



嶽山火山を西より望む。麓の丘陵は舊期洪積層の礫岩片麻岩地。右端は山麓の丘陵は舊期洪積層の礫岩片麻岩地。

不完全なる植物化石が出る。地層の走向は火山の東方では南北又は北一〇度西、傾斜は西又は西南に二十度位であり、火山の西方では北五五度—六五度東、東南に向つて一二度の傾斜を測定した。火山はこの地層を貫けるもので、若し、この地層を舊期洪積層とせば火山はそれより新しき噴出にかゝる筈である。

火山は二上山最後の熔岩讃岐岩と同種の岩石で灰白色に風化するが西麓の潮の宮祠附近の石川河床には巾一〇米もあらうと思はれる黑色細粒の讃岐岩脈があらはれて龜甲状の節理を示してゐる。岩脈の龜裂から湧出する鹽類鐵冷泉は現今潮宮温泉と稱して

之を中心に旅舎料亭が河の兩岸に出來て、大阪市郊外の一仙境と化しつゝある。

嶽山火山は二上火山の西南一〇料にあり。この兩火山に讃岐岩熔岩の存在することは注意すべく兩火山を連ぬる西南—東北線、又は其の延長線に近く長野炭酸鐵鑛泉、潮宮鹽類鐵鑛泉、春日明礬質鑛泉の湧出があり、山田村葉室、磯長村春日等には地、地變等の屢々なる處ありこれ等より考ふればこの附近にはこの方向に一地質構造線の存在するなきやを思はしむ(上治)

#### 大和國宇陀地方の黑雲母花崗岩と

#### 角閃片麻岩

宇陀郡宇賀志村、宇太村四近には角閃石の柱狀小結晶に富み一見石英閃綠岩より變化せりと考へらるべき細粒、剝理性の明瞭なる角閃片麻岩がある。この種の片麻岩は宇賀志村を西北に流れる芳野川河床にも露出してゐるが、この片麻石を貫いて南北又は北二〇度西の方向をとつて幅約一米許の花崗岩脈がある。岩質粗粒、黒

雲母を含み、笠置山附近の花崗岩に類似するが剝理性は全然ない。この岩脈に近く角閃片麻岩中に幅約六分の一米計のペグマタイト岩脈もある。

更に四近を巡檢すると細粒角閃片麻岩は廣く分布し、粗粒の黑雲母花崗岩も亦多し。かくの如く、同一地域に於て構造を異にするこの兩種の岩石を以て同一時代の岩石と見做すことは多少の無理を伴ふが如く、或は角閃片麻岩は古く黑雲母花崗岩は新しく、兩者は時代的にも相當の差異があるのではなからうか。兎に角、大和地方の片麻岩地帯は尙綿密に調査する必要があるらしく野外で感じた。(上治)

#### 大和國大澤水銀鑛山

大和國の辰砂鑛床につきては、曾て故比企博士によりて報告されたことがある。當時は有望なる鑛床は知れて居なかつたが、景山某の熱心なる探鑛の結果、宇陀郡宇太村古市場の北方六町、大澤附近に於て鋪幅の厚き部は六尺に及ぶ

鑛床の存在せるを確めたる由にて、本年五月頃より製鍊をも開始すべき計畫を以て、目下各般の工事を急いで居る。

櫻井驛から自動車にて約一時間餘にして鑛山事務所側に着く。露頭はこの附近から西北と東南とに點々散在し自分が踏査したものののみでもほゞ一直線上に七ヶ所あつた。東南方は稍々方向を南に轉ずるらしく、宇賀志村役場近くから芳野川支流に添ひ駒歸の露頭に連る。この總延長約二十町、大澤附近のみで七町ある。大澤露頭附近は目下四十間許の探鑛的坑類を穿ちつゝあり、屢々、原始的な所謂『狸堀』の舊坑道及遺物を發見するといふ。古く稼行したものらしい露頭は角閃片麻岩を貫く珪質岩脈中に小脈をなして存在する。本年三月中旬踏査の頃は主要坑

道には水ありて入るを得ず、従つて鑛床の要部を見るを得ざりしは遺憾であるが、探堀されたる鑛石は何れも約一〇%以上の品位で、鑛脈の走向北六十度西、傾斜西南に四十度内外、若し鑛量豊富なること確實とならば注目すべき水銀鑛山となるであらう。水銀鑛床は鍾幅の變化多きこと屢々あるを以て、十分探鑛されたいものである。

大和各地の辰砂鑛の連鑛岩を故比企博士は安山岩と推斷された。然るに宇陀、宇賀志地方にて踏査した拾數箇所の露頭のベグマタイト、並に宇賀志村役場の東方芳野川床に露出するベグマタイト岩脈、花崗岩質岩脈の方向及各露頭との關係等より推論せば連鑛岩をこの種の岩石に持つて來たい様な氣がする。(上治)